

2026 年 10 月 14 日

大阪・道頓堀の「道頓堀グリコサイン」 2026 年 11 月末に 6 代目掲出終了 27 年春に 7 代目へリニューアル ～Glico のランナーは走り続けます～

江崎グリコ株式会社は、大阪・道頓堀にある看板「道頓堀グリコサイン」（大阪市中央区）をリニューアルします。2026 年 11 月末をもって 6 代目の掲出を終了し、同年 12 月よりリニューアル工事を開始します。7 代目の掲出は 27 年春を予定しています。

看板の中心に描かれた Glico のランナーは、創業の精神を象徴するシンボルマークとして、人々のすこやかな毎日とゆたかな人生の実現に向けた Glico の取り組みとともに、これからも走り続けます。



■ シンボルマークについて

1920 年に誕生した Glico のランナーは、創業者・江崎利一が掲げた「食品による国民の体位向上」という創業の精神を象徴する存在です。以来、おいしさと健康の価値を届ける姿勢を表すシンボルとして親しまれています。前へ向かって走るランナーは、創業時より受け継いできた私たちの志と、人々のより良い未来への想いを表しています。事業を通じて社会に貢献し、より多くの人々のすこやかな毎日とゆたかな人生の実現に向けて、これからも走り続けます。

<マークの歩み>

Glico のランナーは、1920 年に誕生し、1922 年に発売された創業の商品「栄養菓子グリコ」のパッケージデザインとして広く一般に知れ渡りました。ブランドの成長とともにその役割を変化させ、現在は創業の精神を象徴するシンボルマークとして位置づけています。人々のすこやかな毎日とゆたかな人生の実現にゴールはありません。Glico のランナーは、社会に健康価値を届け続ける Glico の想いや姿勢を象徴する存在として、これからも人々に寄り添い続けます。



Glico のランナー

■ 道頓堀グリコサイン

「道頓堀グリコサイン」は 1935 年の初代設置以来、大阪・道頓堀の景観を彩ってきました。現在掲出している 6 代目は 2014 年に設置されたもので、国内外から多くの観光客が訪れる大阪を代表するランドマークとなっています。2003 年 4 月には大阪市都市景観条例に基づき、「大阪市指定景観形成物」（現在の「大阪市都市景観資源」）にも指定されています。

<6 代目「道頓堀グリコサイン」の取り組み>

6 代目は、人々のすこやかな毎日に向けたメッセージを発信する場として、健康啓発や地域の健全なまちづくりに寄与してきました。

例えば、世界糖尿病デーの啓発取り組みとして、糖質を意識した生活の大切さや、大阪府の健康啓発活動「健活 10」<ケンカツ テン>を紹介する特別映像を放映し、健康に関する情報発信に取り組んでいます。また、大阪府警察と連携した青少年の非行防止や相談窓口の周知啓発に協力するなど、道頓堀エリアの安心・安全なまちづくりに貢献しています。

<概要>

住所：大阪府大阪市中央区道頓堀 1 丁目 10-4

名称：「道頓堀グリコサイン」

大きさ：高さ 20.00m × 横幅 10.38m

点灯の仕組み：LED チップ約 14 万個（143,976 個）

点灯時間：日没後～24 時



実際の取り組みで掲出した例

参考資料

■ 歴代の「道頓堀グリコサイン」

世代	写真	概要
初代 1935 -1943		1935 年、創業者・江崎利一が人通りの多い大阪・道頓堀のこの場所に目をつけ、初代のネオン塔を建設しました。高さ 33m を誇るネオン塔は、トレードマークのランナーとグリコの文字を 6 色に変化させ、同時に毎分 19 回点滅する花模様で彩ったものでした。当時としては型破りのネオンで、一躍大阪ミナミの名物となりました。1943 年、戦況が厳しくなり鉄材供出のため撤去されました。
2 代目 1955 -1963		戦後の 1955 年、2 代目が再建されました。ネオン塔（高さ 21.75m）は砲弾型の下部に特設ステージ（高さ 5.26m）を持つユニークなもので、そこでは大きな人形のワニ君がピアノをひいたり、人形劇を演じたり、ロカビリー大会を催したりしました。
3 代目 1963 -1972		1963 年には 3 代目にバトンタッチし、噴水ネオン塔になりました。12 トンの水が、トレードマークの中心部にある 150 本の水車状のノズル（高さ 18m、横 8m）から噴き出し、12 色のランプ 400 個がそれを照らして、きれいな虹の模様を描きました。落下した水は、またポンプで上のタンクに戻す仕掛けになっていました。
4 代目 1972 -1996		高さ 17m、横 10.85m で 1972 年に建設しました。バックになっている陸上競技場のトラック部分を点滅させ、トレードマークのランナーに躍動感を持たせたネオンでした。このネオン塔は、日没から午後 11 時までネオンが点灯し、競技場の中央コースからゴールインするランナー姿が川面に映え、看板を背景に記念撮影するほどの名物看板になっていました。隣接するビル改装に伴い 1996 年 1 月 21 日に消灯しました。
5 代目 1998 -2014		1998 年 7 月、4 代目の撤去後、約 2 年半ぶりに再点灯しました。陸上競技場のトラックを走るランナーの背景には、大阪を代表する 4 つの建物（大阪城、海遊館、大阪ドーム、通天閣）が描かれていました。また、バックの情景の色が変化することで、朝、昼、夕焼け、そして夜と、ランナーが大阪の街を一日かけて走っているような姿を表現しました。
6 代目 2014 -現在		2014 年 10 月、6 代目となる現在のグリコサインは、従来のネオン灯に代わり照明に 14 万個の LED を使用し、多彩な映像演出が可能になりました。

■ 江崎記念館のジオラマ展示と Web-VR コンテンツ

江崎記念館（大阪市西淀川区）では、初代から 5 代目までの「道頓堀グリコサイン」と当時の周辺風景を再現したジオラマを展示しており、Web-VR コンテンツでもご覧いただけます。

<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/ezakikinenkan/>